

教育民生常任委員会 摘 録

1. 開 催 日 令和6年10月15日（火） 第3委員会室
2. 出 席 委 員 五島誠委員長 前田智永副委員長 赤木忠徳 横路政之 宇江田豊彦 藤木百合子
3. 欠 席 委 員 なし
4. 事務局職員 橋本和憲議会事務局主任主事
5. 説 明 員 森田一徳児童福祉課長
6. 傍 聴 者 なし
7. 会議に付した事件
 - 1 子育て支援について
 - 2 庄原市議会ガイドブックを活用した常任委員会活動について
 - 3 その他
 - 4 子育て支援について（担当課との意見交換）

午後1時00分 開 議

○五島誠委員長 ただいまより教育民生常任委員会を開会いたします。ただいまの出席委員は6名です。よって、直ちに会議を開きます。本日の会議において、写真撮影、録音、録画を許可しています。

1 子育て支援について

○五島誠委員長 協議事項1点目ということで、先日前伺した長崎県大村市の行政視察のまとめをしたいと思います。まず委員同士で率直にどうだったかというのをまとめて、後ほど児童福祉課長が出席して下さるので、意見交換をしてさらに深めていければと思います。1ずつまとめをしようと思いますので、まず参考になった事項を委員の皆さんにそれぞれ言ってもらえればと思います。よろしくお願いいたします。どなたからでも結構です。藤木委員。

○藤木百合子委員 こども未来館「おむらんど」の施設内を、子供たちの遊具がたくさんあって0歳から小学校くらいまで楽しめるような場所を見させてもらって、室内ということで天候に左右されずに交流ができる場所があることが非常にいいなと思って帰りました。

○五島誠委員長 他にありますか。横路委員。

○横路政之委員 先ほどの、こども未来館「おむらんど」には、個人相談を受ける所が併設されている。本市の場合は個別に相談に行く形ですけれども、連れて行ってその流れの中で相談を受けるのもいいスタイルだなと、本市でもまねができるのではないのかなと思いました。

○五島誠委員長 他にありますか。横路委員。

○横路政之委員 大村市はベッドタウンで、急速に若い人が入ってきて自治体間格差が問題とのことです。市民と語る会で敷信自治振興センターに行き聞いてみたら、その周りに結構家が建っているのですが、自治会に入らないとか、似たような現象が起こっているなと思いました。アプリ等々を利用してその差を埋める取り組みをされていることも部分的には参考になるかと思います。

○五島誠委員長 宇江田委員。

○宇江田豊彦委員 施設的な面では参考になる部分が大いにあったと思いますが、まちの規模の違いや、子育て支援施設等々の公設公営というのはほとんどないので、本市の実態とは大きくかけ離れていて本市の取り組みとしてはなかなかマッチしない部分がかなり感じられました。

○五島誠委員長 先ほど、参考になった点だけではなく課題についてもそれぞれ言うていただきました。ここからは、それぞれ参考になった点、課題になった点どちらでも結構なので言うてください。赤木委員。

○赤木忠徳委員 大村市は、子育てをするなら大村市というイメージ戦略を当初から持っていて、他市が先を行っても行政的なことはあまり気にしておられない。とにかくイメージを総合的に持ちながら、子育てをするなら大村市ということで突き進んでいる。こども未来館「おむらんど」があるから大村市に来たという移住者も結構おられるとのことで、非常にいいなと思います。それから、先ほども話が出ましたが、人とまちのつながりが希薄になってきて、信頼できない、知らない、かかわらないという人が結構ふえてきたと。とにかくお互いに助け合おうということで、デジタル田園都市国家構想交付金を利用して、地域通貨を利用した、お互いに助け合いをするソフトもつくっていることに関しては、庄原市でもすぐにできる、地域通貨があるので非常にいいのではないかなと感じました。それと、遊び場の中に職員を10名配置して常に子育ての悩みを聞ける体制ができていることは、非常に即効性があるし、お互いに信頼できる体制ができているなど。若いお母さんにとって心強い場所になっているなと感じました。

○五島誠委員長 前田副委員長。

○前田智永副委員長 最初に話を伺った、家でも学校でもない第三の居場所についてですけども、校区外利用も多く、ずっと定員を超えている状態で、送迎をきちんとされているのが人気のポイントなのかなと感じました。しあわせ循環コミュニティ事業は、マイナンバーカードで銀行口座とひもづけて、世代関係なく全員がIDを取得して、子育てアプリや地域通貨ときちんと連携させているところが非常に人気の理由なのかなと思いました。こども未来館「おむらんど」に来られているお母さん方は市外の方が多いと伺いました。子育てアプリや地域通貨は市内の方限定なのでどのように対応されているのかというと、LINEを活用して予約の受付などをされているとのことで、市外の方を常に取り込む仕組みにされているので転入にもつながると伺いました。そういった点も、本市でも取り入れられるいい点なのかなと思いました。

○五島誠委員長 藤木委員。

○藤木百合子委員 出産・子育て応援給付金を現金で受け取られた方とポイントで受け取られた方の数がかかれていたと思いますが、現金のほうが多かったように記憶しています。そのときに質問すればよかったのですが、これはどうなのかなと少し疑問が残りました。使いにくいかなと思いました。

○五島誠委員長 藤木委員が言われた、ポイント給付と現金給付の割合とその要因については、後日でもメールで質問ができます。せっかくの御質問なので聞いてみようと思いますが、事務局で対応できますか。よろしいですか。そのようにします。他に視察で参考になった点、課題になった点について、委員の皆さんからありますか。赤木委員。

○赤木忠徳委員 庄原市には結構いろいろな子育て支援策があります。奈義町に行ったときにも話をしたのですが、生まれてから大学卒業までの支援をまとめて、庄原市にはこういう施策があるというこ

とを市民にお知らせするものが全くないのです。そういうものをしっかりとまとめて、市民にお知らせする資料を何かつくったほうがいいという話をしたのですが、まだ動きがないので、どこがするのか、我々が議会としてするのか、それとも執行者がするのか、もう少し前向きな動きが出てくればなと思います。

○五島誠委員長　赤木委員、既に提言の部分に入っておられますか。それは後で整理したいので、他に参考になった事項、課題になった事項がまだあればお伺いします。私としましては、先ほど宇江田委員が言われましたけれども、まちの規模や文化的な下地、あるいは財政状況、人口がふえている状況など、大村市は特徴的な部分が多いと思います。交通の便で言いますと、新幹線や空港があり、地理的にも隣に大きな主要都市があってベッドタウンの要素もあり、さらには、財政的な部分も関係してくると思いますけれども、自衛隊の駐屯地もある。そうした部分が大きく違う。一方で、まちを歩くと、市の直営ではなく民間でされている発達支援や放課後児童クラブといったさまざまな子育て支援関連施設がありました。まち全体でというよりも民間の力が強い所で、庄原市とは雰囲気も随分違います。そうした中で、どうしていくのかということについては、同じことはできませんが、庄原市として何が足りていないのか、必要な部分は何なのかを考えていく必要があるのかなと率直に感じました。先ほど赤木委員から提言がありましたけれども、今回の視察で、市あるいは議会、市民の皆さんにどういった提言ができるのか、委員の皆さんの御意見をください。藤木委員。

○藤木百合子委員　今回の庄原市の広報で、子育て支援をまとめてコンパクトにわかりやすく提示されていて、すごいなと思いました。そういったことを基礎に、今度は就学支援というか看護師や医者などへの支援、学校に行くための給付金くらいまでを加えてPRをしたらいいのかなと。先ほど赤木委員が言われたように、市民にもっとわかりやすく。今回の広報には非常にわかりやすくコンパクトにまとめたものが出ているなと思いましたけれども、それにプラスしていけばまたいいものができるのかなと。

○五島誠委員長　他にありますか。前田副委員長。

○前田智永副委員長　先ほど申し上げましたが、大村市はいろいろなIDやアプリ、地域通貨等をうまく連携させておられましたが、本市でも特徴的ないいいものがたくさんあります。例えば、母子手帳アプリ「母子モ」や地域通貨「なみか・ほろか」があるし、ファミリー・サポート・センター事業もあります。そういったものを、横つながりといいますか、うまく連携できないものかと強く感じました。その辺を研究すれば、自助・共助・公助をそれぞれ評価して、いい取り組みができるのではないのかなと思いました。その中で、子育て日本一のようなコンセプトを住民一人一人にしっかりと伝えられる取り組みをしていくべきだと思いました。

○五島誠委員長　そのほかにありますか。赤木委員。

○赤木忠徳委員　九州がそうなのか大村市がそうなのか、放課後児童クラブを民間に委託されています。放課後児童クラブに1万円くらいかかっています。そういう面では、庄原市の場合は本当に安価で、放課後に子供たちを安心して預けられる体制をつくっていることは、よそと比べる必要はないにせよ、よそはこうだけれども庄原市はこうですよと、何らかの形で市民へ知らしめることができればなと感じました。非常に高い。だから、1万円もかかるのなら預けないという話になっているのかどうか。人数的なことを聞いていないので、どれくらいの比率で、放課後児童クラブは1万円くらいだけれども、それでも利用されているのかをあわせて聞ければよかったなと思います。

○五島誠委員長 その件については、大村市の認識としては既に1万円くらいがスタンダードになっているということで、特段その件について、例えば、安くしたから利用者がふえとか、そうした戦略的なものもないし、1万円が高いという認識がそもそもないのが答弁に出ていたように思います。安くして欲しいという声が上がっているとは言われなかったので、正直なところ、それ以上聞くのはどうなのかなと感じます。

○赤木忠徳委員 どういう比率なのか知たかったです。

○五島誠委員長 利用率ということでもいいですか。そのことは、あわせて聞けるのではないかと思います。ただ、放課後児童クラブについては、金額も含めて、利用するかどうかは文化的な違いも若干あるのかなと。その資料については、また考えます。放課後児童クラブの利用率は伺います。そのほかに、提言の部分で皆さんから何かありますか。横路委員。

○横路政之委員 藤木委員が言われた子育て支援に関する広報。広報の9月号にあるけれども、すごくわかりやすく、何歳なら何があるのかが一発でわかる、その詳細もわかる。ただ、単発ならもうごみになっていると思います。いつでも引き出せるような電子母子手帳「母子モ」などであれば、対象の人にすぐに情報を発信できると思います。

○五島誠委員長 私の記憶が違うのかもしれませんが、子育て支援のパンフレットのものは既に児童福祉課で作成されていて、どのタイミングでお渡しするのか、母子手帳交付のタイミングなのか訪問をするタイミングなのかは覚えていませんが、配布等はされていると思います。委員の皆さんが言われているのは、それも含めて、もっと市民の方にわかりやすいように、利用しやすいようにすることと、赤木委員の意見を頂戴すると、庄原市は子育てをすごく頑張っているということが市民の方々に伝わるような取り組みをしていかないともったいないということがあるのではないかと思います。加えて申し上げますと、対象となる方、子育て中や今から子育てをされる方々のみならず、市全体で子育て支援を頑張っていくという姿勢が、市民の皆さん一人一人もそうですし、もっと言えば市外の方も含めて、庄原市は子育てを頑張っているまちだということがもっと認知されるように手を打っていかねばならないということで提言をしなければならぬのかなと思いました。横路委員。

○横路政之委員 紙ベースでもいいけれども、方法の工夫や改善は必要だと思います。

○五島誠委員長 デバイスの活用なども含めてということで。そのほかにありますか。よろしいですか。私からも1点だけ。正直なところ、大村市は豊かでした。庄原市で同じことができるかといえば、今の状況ではできません。子育て支援の取り組みをさらに前に進めようとなると、庄原市の場合、財源をどうするのかということが出てきます。子育て支援の財源をつくる取り組みについては、児童福祉課に提言するというよりも、市としてもっといろいろな方法を考えていくしかないのかなと私は感じます。財源のことについても触れたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。宇江田委員。

○宇江田豊彦委員 b & g おおむらですが、日本財団の資金を使って建設しているので、庄原市でそれが即できるかという、難しいと思います。自衛隊が3隊あったり、勧誘活動等々の縛りもかかってくるので同じことをするのは難しいと思います。財源については考えていかなければなりません。

○五島誠委員長 他にありますか。よろしいですか。それでは、まとめはこの程度にします。追加で2点、大村市に問い合わせをしたいと思います。回答が届き次第、皆さんに報告します。それでは、この件についてはこの程度で閉じて、この後、児童福祉課長と意見交換をします。今出た意見だけではなく、意見交換をしていくうちに感じた、思い出したことも含めて言ってもらえればと思いますので

よろしくお願いいたします。もう1点、議会広報委員会では、ホームページ上にミニ広報紙を載せたらどうかということで取り組みをしており、特集ではないのですが、今回の行政視察の件を載せたいと思いますのでお知りおきください。また、皆さんが視察当日に撮られた写真等があるかと思っています。もしあれば、事務局で一旦集約したいと思いますので、メールで送信してください。御協力をよろしくお願いいたします。

2 庄原市議会ガイドブックを活用した常任委員会活動について

○五島誠委員長 続いて、協議事項2点目、庄原市議会ガイドブックを活用した常任委員会活動について、西城紫水高校における主権者教育ということで、本委員会では今月22日に西城紫水高校にお邪魔して授業をさせてもらうことになりました。この間、私のほうで打ち合わせを兼ねて御挨拶に伺いましたのでそのことも含めて、日にちも近づいてきたので、打ち合わせといいますか、確認をしたいと思います。よろしくお願いいたします。モアノートに資料を入れています。まずそちらをごらんください。少し変わったところがあります。前回の話では、1つの教室ということで、2人ずつですることにしていましたが、高校の部屋の関係でそれぞれ1年生、2年生の教室でしないと難しいとのことで、やり方を若干変えています。要は、この6人のメンバーを2つに分けて、それぞれ1年生教室、2年生教室を担当して授業をするように変えましたので御確認ください。皆さんに諮る時間的な余裕がなかったため、それを受けて私と事務局とで組んだスケジュールとグループ分けになっていますので御了承ください。

○赤木忠徳委員 3つのグループに分けて意見交換を行うとのことですが、これはどういう形で3に分けるのですか。1年生と2年生で2つに分けていますよね。それをさらに3つのグループに分けるという意味ですか。

○五島誠委員長 そうです。前回まではグループごとに2人ずつでするようにしていたのですが、人数的に難しいので、それぞれ御一人で1つのグループを担当してもらうと。

○赤木忠徳委員 1人対数人ということですね。

○五島誠委員長 そういうことになります。

○赤木忠徳委員 書きながらいろいろとしないといけないですね。

○五島誠委員長 確認をしてもらって、もし何かあれば、この場でなくても結構なので、委員会が終わった後でも打ち合わせできると思いますのでよろしくお願いいたします。暫時休憩いたします。

午後1時34分 休 憩

午後1時40分 再 開

○五島誠委員長 休憩前に引き続いて、会議を再開いたします。集合時間は11時半で十分ではないかと思いますが。集合場所については、現地の方は現地集合も可能ですし、市役所本庁発で、車で行くこともできますので、事務局に意向をお知らせください。準備物については、今回はPCやスクリーンといったものは用意してもらわないということで高校と確認していますし、こちらからも持って行きま

せんので、それぞれが自分の端末で見るということでよろしく願いいたします。事務局がワークシートをつくっているので活用したいと思います。こちらは当日配付しようと思っています。また、当日の進め方の会場準備シートとガイドブックのURLについては、本日、西城紫水高校へメールで連絡します。それでは、この件についてはこの程度にとどめます。

3 その他

- 五島誠委員長 協議事項3点目、その他ということで、委員の皆さんから何かあればお伺いします。
- よろしいですか。それでは、次回の委員会の日については、後ほど調整するのはなかなか難しいと思いますので、この場で決めます。次回の委員会で何をするのかについては、本委員会では残り2つの所管事務調査事項があり、その最後のまとめに向けて、どのようにまとめていくのかも含めてまだもう少し議論が必要な部分や調査が必要な部分があるかと思います。そうしたことを確認する委員会にしようと思っています。今月のどこかでしたいと思っていますが、皆さんの御都合はいかがですか。10月28日の午前中は皆さんいかがですか。よろしいですか。それでは、次回の委員会は10月28日、月曜日、午前10時からということで御参集をよろしく願いいたします。一旦、休憩といたします。

午後1時44分 休 憩

午後1時48分 再 開

4 子育て支援について（担当課との意見交換）

- 五島誠委員長 休憩前に引き続いて、会議を再開いたします。児童福祉課長が出席してくださっています。先般一緒に行かせてもらった行政視察について、率直に意見交換をする場を設けたいと思い、きょうはこうした形にしています。よろしく願いいたします。それでは、冒頭で、課長の感想というか、もし特徴的だったことがあればお伺いします。
- 森田一徳児童福祉課長 先日は、長崎県大村市の視察に随行させてくださってありがとうございました。大村市は、人口がふえており、出生率も多く、ボートレース事業をはじめ、いろいろと条件が違う中での子育て支援についての視察だったかと思います。まず、家でも学校でもない第三の居場所については、庄原市ではなかなか取り組みが難しい部分で、大村市には地域資源や民間の法人が数多くあります。庄原市は民間の法人が少ない中で行政が頑張っていかなければならない部分があります。民間の法人がたくさんあることは、庄原市からすると若干うらやましいなと感じました。しあわせ循環コミュニティ事業については、今年度から始められたということで、今からという部分もあるかと思います。子育て支援に関しては、本市でも母子手帳アプリ「母子モ」を使っているところと取り組みを進めているので、それに地域通貨が加わって、今後どのように発展されるのかなと興味深く聞かせてもらいました。最後に、施設見学を行った、こども未来館「おむらんど」の部分です。地域子育て支援センターという名目で、屋内の遊び場等も充実した建物で、行ったときにはたくさんの方がおられました。子供だけでも庄原市なら保育所が1カ所運営できるくらいの人数で、たくさんの方でにぎ

わっていたのを見させてもらいました。以上です。

○五島誠委員長 ありがとうございます。それでは意見交換に移ります。どなたからでも結構なので、質問なり御意見なりを交わしていきたいと思います。横路委員。

○横路政之委員 これはまねをしたいというのがありましたか。違い過ぎるから難しいですか。

○森田一徳児童福祉課長 そういうものもあります。

○五島誠委員長 他にありますか。前田副委員長。

○前田智永副委員長 先ほど課長もおっしゃいましたが、本市で言う母子手帳アプリ「母子モ」と地域通貨「なみか・ほろか」になると私は想定したのですが、そういったものをうまく連携させておられると感じました。本市でもそういったことを研究していかなければならないと思うのですが、その辺はどのように感じられましたか。

○森田一徳児童福祉課長 今回、子育て支援と地域通貨「ゆでぴ」の連携をもう少し聞けばよかったのかなと。地域の助け合いの部分での地域通貨「ゆでぴ」との連携は15分100ポイントという説明を受けたと思いますが、子育て支援と地域通貨の連携がどのようになっているのかなと少し思いました。もし、子育て支援アプリと地域通貨で何か連携があるのなら、庄原市の地域通貨「なみか・ほろか」との連携の部分について何か発展が見えてくるのかなと少し感じました。

○五島誠委員長 横路委員。

○横路政之委員 こども未来館「おむらんど」の一角に相談する所がありました。外部から入れないようにしてありました。庄原市でも相談を受けていますよね。庄原の場合は、悩みがあったら担当課の窓口に行って相談するようなスタイルです。子供を連れて行った流れの中で相談を受けられることをどのように感じられましたか。

○森田一徳児童福祉課長 庄原市の子育て支援センターでも、庄原ひだまり広場、あるいは田川や帝釈の子育て支援センターなどで、親子連れて遊んだりする中で支援員の方と話をし、日ごろの子育ての悩みなどいろいろな相談もできると思います。田川や帝釈の子育て支援センターは発達支援の関係の相談も受けているので、親子で行かれる場合もありますし、保護者が単独で行かれて、いろいろな子育ての悩みや、子供とどうかかわっていけばいいのかといった相談をされています。児童福祉課の窓口だけに限らず、そういった支援センターなども活用してもらっているのが現状です。

○五島誠委員長 他にありますか。赤木委員。

○赤木忠徳委員 広報の9月号に「特集 みんなで応援 すくすく庄原っ子」というのがありますよね。これは児童福祉課が中心となって特集を組んだのですか。

○森田一徳児童福祉課長 子育て世代包括支援センターが、保健医療課の母子保健係もかわりがあるので、その辺とも連携をしながら特集を組みました。子育て支援ガイドブックもつくっていますが、これだと手に取ってもらわないと皆さんの御手元に届かないこともあると思います。広報紙であれば子供がおられてもおられなくても届くということもあり、凝縮して広報の中に綴じて、抜き出せばこれがひとり歩きをして支援の案内になるのではないかとということで、今回、特集を組みました。

○五島誠委員長 赤木委員。

○赤木忠徳委員 あともう少しというところです。子育て支援センターや子育て支援関係の課だけでなく、あとは、庄原市全体でこれだけ熱心に取り組んでいるのだと、例えば、出産祝金や、学校に入学したらこれだけあるとか、大学に行こうと思えば奨学金制度もあるとかそういう形で、庄原市は全

体的に子育てのまちだというような。大村市は、子育てをするなら大村市というイメージづくりをしています。ウェブ版でもいいので、何かそういう形で、それを中心に各課と一緒に幅広く物事をすることはできませんか。

○五島誠委員長 課長。

○森田一徳児童福祉課長 印刷物や広報紙はいろいろな世帯に届くと思いますし、支援センターなど、子育て関連の窓口に置いたりもします。訪問する際にお渡ししたりすることもあります。特に、若い世代の方は、こういったものだけではなく、ホームページやスマートフォンなどのデジタルなつながりを利用して情報を得られることもあります。言われるように、ホームページなど、いろいろな媒体を使って、庄原市が子育てをどれだけ頑張っているのかを外に向けてPRしていかなければならないことは私も重々わかっております。庄原市はその辺が不得意なのかなということもあります。子育て支援は児童福祉課だけは完結しません。就学をしたり、それ以降になると、課が変わったり教育委員会の絡みも出てくるかと思います。その辺を、連携しながら上手に発信できればいいなと個人的に考えていますし、そのように取り組んでいきたいと思っています。

○五島誠委員長 赤木委員。

○赤木忠徳委員 ウェブ版ならいつでも簡単に直せるし、追加もできます。例えば、児童手当の金額が少し上がりましたよね。そういうこともすぐに、簡単にできるので、できればウェブ版をつくってみようという形で呼びかけをして、保険医療課も関係しますよね。それを含めて動きが見えればいいなという話を先ほどもしていました。せっかく母子手帳アプリ「母子モ」が普及しているのです。9割くらい普及しているのですか。

○五島誠委員長 課長。

○森田一徳児童福祉課長 母子手帳の関係は保健医療課の母子保健係になるので私は具体的な数字、資料を持ち合わせておりませんが、基本的には、母子手帳自体は全ての方に配られて、母子手帳アプリ「母子モ」御案内して、アプリ登録をお願いしますという形になっていると思います。普及率の数字は持ち合わせていませんが、母子手帳アプリ「母子モ」でいろいろな子育ての講座や教室、イベントなどの案内をしていますし、保健医療課から、アンケートや予約で活用をしているという説明があったかと思います。

○五島誠委員長 赤木委員。

○赤木忠徳委員 ウェブ版にするとQRコードを貼り付ければ母子手帳アプリ「母子モ」に飛ぶこともできるし、何か動きを見せてもらいたいなど。庄原市はこれだけ子育てを一生懸命しているのだというイメージ戦略も含めて動きが見えればと思います。その辺は動いてみてもらえますか。

○五島誠委員長 課長。

○森田一徳児童福祉課長 ほかの関係課等も協議しながら、そういった方向で。例えば、ほかの市町では、子育てポータルという子育てに関する情報を集めたホームページもあったりします。庄原市もトップページから子育て支援のいろいろな所に飛ぶようにはしていますが、少しわかりにくいのかもかもしれませんので、その辺は関係課とも協議して、検討していきたいと思っています。

○横路政之委員 ホームページですが、読む気になれません。どこを選んでいいのかわからなくなるくらいいっぱいあります。これでは行政的に考えて出しているような感じです。図があればぱっと見てわかります。大変だと思いますが、少し考えてみてください。

○五島誠委員長 他にありますか。赤木委員。

○赤木忠徳委員 先ほど話したように、最初から完璧なものを求めずに、1段階、2段階という形で追加や訂正をしていくことで素晴らしいものができると思います。段階的に、例えば、今は子育て支援関係の課が中心となっていてはいるけれども、医療関係の課も一緒になる、教育委員会も一緒になるという形で少しずつ幅が広がっていけばいいわけで、最初から完璧なものをつくらうとしないほうがいいかもしれないです。印刷物ではないのですから。

○五島誠委員長 他にありますか。前田副委員長。

○前田智永副委員長 先ほど来、発信の仕方や見やすさの話が続いていますが、大村市では子育て支援関係のイベント、視察をしたときにも集まっておられましたが、読み聞かせの会の予約をLINEで受けていました。子育てアプリだけだと市内の方しか伝わらないので、市外の方にも来てもらえるようにする取り組みだったと思います。私も母子手帳アプリ「母子モ」をよく活用するのですが、予約ができます。これで予約が完結するのですごく楽なのですが、それとは別にLINEでも広く伝えていろいろな方に来てもらうことも1つの手なのかなと個人的に思ったので、その辺も考えてもらいたいと思います。要望です。

○森田一徳児童福祉課長 LINEのことは研究します。

○五島誠委員長 他にありますか。赤木委員。

○赤木忠徳委員 教育指導課では、文部科学省から表彰を受けるくらい本の読み聞かせに力を入れています。それと同じように、西城町では「おはなし会ダンボ」で幼児向けに絵本の読み聞かせをしていますが、関係する人、そういう意識を持っている人しか知らないのです。これも文部科学省から表彰を受けました。それくらい先進的な動きをしているにかかわらず、もったいない。母子手帳アプリ「母子モ」などとなげられないのか。「おはなし会ダンボ」はつながっていないと思います。もったいないと思うので、そういう工夫をしてもらえればありがたいなと思います。

○五島誠委員長 他にありますか。先ほど課長も言われましたし、委員間で話をする中でも、前提条件といいますが、庄原市と大村市ではそもそもの背景が違うということがありました。そうした中で、大きく何が違うのかを2点挙げると、1点目が、先ほど皆さんで議論になっていた風土づくりで、市全体で子育てをしていることを市内外に認知してもらう取り組みを進めたほうがいいのかということ。もう1点は、何と言っても財源づくりだと思います。財源をどうしていくのか、大村市はボートレース事業があって、自衛隊があって、交通の便もよく、人口もふえており、はっきり言って豊かです。庄原市であれもこれもするのは難しいですが、努力しなければならないのは財源づくりの部分だと思います。市役所がどうやって稼ぐのかという話になると思います。大村市では、例えば、デジタル田園都市国家構想交付金を受けた事業もされていました。児童福祉課だけで考えるのではなく市全体で、例えば、国の予算をどう確保していくのか、あるいはせっきく庄原ファンクラブがあるのだから市外の方々にも庄原市の子育てについて寄附を募るとか、クラウドファンディングなど、新しい財源の在り方を研究して、それによって庄原市の子供たちをどのように育てていくのだと。どちらにせよ、市全体で子育てをしていく風土づくりが不可欠だと思いますので、ぜひとも課長から部長を通して、副市長を通して、市長に庄原市子育て宣言のようなものをまずはしてもらって、各課の連携等についても、市として、例えば、児童福祉課だけで子育て支援するのではなく、子供にやさしいまちにするためには、建設課ではどのようなことができるのかとか、各課でできることを考える。本

当にそのくらい市全体で子育てに特化して取り組む。商工観光課はどうか、農業振興課はどうか、税務課はどうか、総務課はどうか、全て関連すると思います。そうする中でやっと、庄原市で子育て支援を頑張るという風土、文化がつくられるのではないかと思います。今回の視察から大きく逸脱している部分もあるかもしれませんが、今回の視察を通してそうしたことを強く感じたのでお伝えしておきます。他にありますか。よろしいですか。今後も、この件に限らずいろいろな意見交換をしていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。暫時休憩いたします。

午後2時7分 休 憩

午後2時12分 再 開

○五島誠委員長 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。以上で教育民生常任委員会を閉会します。

午後2時12分 散 会

庄原市議会委員会条例第 30 条の規定により、ここに署名する。

教育民生常任委員会

委 員 長